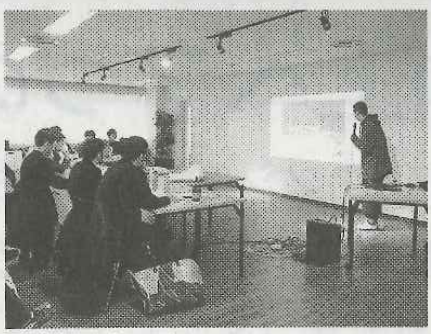
ワークショップ「建築×合宿」30大学から104人

特別協賛は総合資格学院

参加者全員で集合写真



プレゼンテーション

全国の大学建築系学科の学生が合宿しながらグループで課題に取り組むワークショップ「建築×合宿2019」が、2月26日から3月3日にかけて兵庫県南あわじ市の国立淡路青少年自然の家で開かれた（主催＝建築×合宿2019実行委員会、特別協賛＝総合資格学院）。

今回は、30大学から104人が参加し、14の班を結成。兵庫県南あわじ市阿万をモデル敷地に設定し、「スケール」「重さ」「記憶」からそれぞれ言葉を選んで「生活のための空間」を設計した。

3日に大阪市内で開いた最終講評では、五十嵐太郎東北大大学院教授や白須寛規氏（designSU）、畑友洋神戸芸術工科大准教授、宮城俊作奈良女子大大学院教授、延原直樹氏（LIB）が審査員を務めるプレゼンテーションを開催した。

最優秀賞には8班の「がらくたのある日常」が輝いた。また、五十嵐賞には9班の「時のギャラリー――阿万の価値観を伝える」、白須賞には13班の「老活の場」、畑賞には6班の「見え隠れする気配」、宮城賞には5班の「第一フィーズ　農家継承のきっかけ」、延原賞には7班の「ふっとばす」を選出した。

2019年3月7日
建設通信新聞

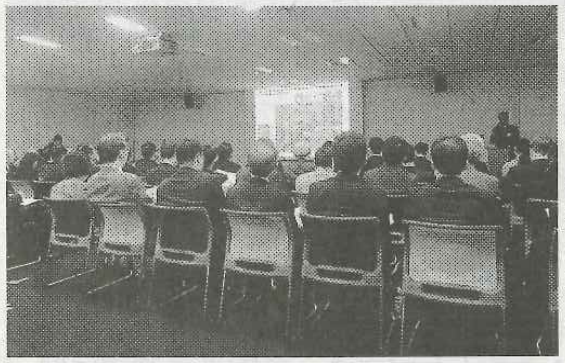
冒頭、八木一夫近畿運輸局長は「地方にとっては観光が地方創生の切り札となっている。観光産業は民間が事業として行うものだが、現況の規制の取り扱いや観光地に行くための交通手段など、いろいろな主体が横断的に知恵を出し合う組織が必要。今後も関西の観光を盛り上げるために頑張りたい」とあいさつした。

会議では、▽観光産業促進▽交通対策▽航空・外航クルーズ▽観光地域づくり▽はなやかKANSAI魅力アップや近畿運輸局などの国の地方機関と地方公共団体、観光関係団体、交通事業者などで構成。4月以降にも国土交通省観光立国推進本部に今年度のとりまとめを報告する。

万博みらい研究会がキックオフイベント

三菱総研

三菱総合研究所は4日、2025年大阪・関西万博に関するセミナーを大阪市のグランフロント大阪で開いた＝写真。同研究所大阪万博推進室に新たに設けた「万博みらい研究会」のキックオフイベントで、約160人が参加した。



主催者あいさつに立った同研究所の吉川惠章副社長は「未来社会場としての大阪・関西と題し中村秀治執行役本部長が講演した。続石善啓常務研究理事研部門長が「万博×SD取り組みを通じた社会決」について報告した。

このほか参加者も交ークショップ方式のデッションなども行われをめどに同研究会とし言をとりまとめる予定

公告ファイル

【近畿地方整備局】

〈業務〉

▽熊野川災害防災計画業南河川国道事務所）

催し物

◇耐震総合安全機構（J近畿支部主催「マンション21日午後1時ミナー」5時まで、大阪市の住宅機構近畿支店すまいるホー

「大地震被災状況と耐震例」をテーマに、マンシ耐震改修事例を紹介。改修手がけた建築士や管理組合による報告もある。耐震改めの融資制度説明や個別相予定している。

無料。定員80人。名前、連絡先などを記入のうえ同務局あてに電子メール（ks-ji）で申し込む。

の詳細設計。

ともに履行期間は2020年3月20日まで。業務場所は神戸市東灘区。

大滝ダム放流警報は東芝通信インフラに

近畿地方整備局は、WTO対象の「大滝ダム放流警報設備設置工事」を一般競争した結果、5億7260万円（税別）で東芝通信インフラシステムズに決めた。入札には同社を含め8社が参加（うち1社辞退、1社無効）した。

概要は監視制御局装置1局、監視局装置1局、中継局装置2局、警報局装置75局。工期は2021年2月28日まで。工事場所は奈良県川上村大滝地先～和歌山県橋本市高野口町小田地先。